公　立　那　賀　病　院　♥　乳　が　ん　患　者　会

チェリーの会だより

発行者　公立那賀病院内 乳がん患者会「チェリーの会」

ニュースレター　No.23　2014年3月発行

「乳癌学会のお話」みんな「一生懸命」

2013年8月末日にチェリーの会が開かれました。前半の学習会のテーマは「乳癌学会のお話」。

2013年6月27日から29日にかけて浜松で開催された「第21回日本乳癌学会学術総会」に参加されたときの様子を玉置剛司先生にレポートしていただきました。

なお、今回のチェリーの会の四字熟語は「一生懸命」。患者さんが治療に一生懸命なように、医師や医療関係者も一生懸命にチーム医療に取り組んでいるということです。

◆◇ ◆◇ ◆◇ ◆◇ ◆◇

第21回日本乳癌学会学術総会は、応募演題数1848演題、参加者数5669名と、大盛況だったそうです。演題募集の結果、最多応募カテゴリは「薬物療法」471演題、最多応募テーマは「転移・再発乳癌の化学療法」111演題でした。

今回の乳癌学会の特徴は、参加区分に患者枠が設けられたことと、腫瘍内科が注目されていたことでした。今回の学術総会会長は、渡辺亨先生（浜松オンコロジーセンター）が務められました。腫瘍内科医が乳癌学会学術総会の会長に就任するのは初めてのことだそうです。

また、最近は患者の学術集会（学会）への参加が広がりを見せています。今回、乳癌学会でも患者の立場で参加することが可能になりました。これまで、筆者も何回か乳癌学会などに参加しましたので、感慨深いものがあります。

「わたしのカルテ」作成会

後半は、4月の学習会テーマでも取り上げられた「わたしのカルテ」作成会を行いました。難しい用語が多く、術後何年も経ってみんな忘れていることもありましたが、玉置先生から解説していただき、ひとつひとつ勉強しました。

小冊子　わたしのカルテ

♥♡ ♥♡ ♥♡ ♥♡ ♥♡

「諸行無常」一日一日を大切に

2013年11月9日に、チェリーの会勉強会が、病院の北側に新しくできた新館１階の会議室、新築のにおいのする建物にて開催されました。

最初にびっくりなお知らせがありました。2013年12月で玉置先生と川路先生が他の病院に異動になるということでした。2013年1月からお世話になってきて、チェリーの会の活動にも積極的に参加していただきましたし、親しみのある先生だけにとても残念です。参加者も一様に驚いて残念がっていました。

今回の玉置先生の四字熟語は、「諸行無常」。良くも悪くもすべての物事は移り変わるということです。今日と明日は違う。だから一日一日を大切にしながらいくことが大事であると。玉置先生の異動についても、何事も「常ならむ」ことを感じさせられます。

今回は、検査や再発治療の情報を知ることで、こわがらずに術後を過ごせるようにしたいという目的で、難しいテーマですが、玉置先生にお話しいただけることになりました。

（次ページにつづく）

乳がんサブタイプについて

標準治療は現時点で安全かつ有効な治療です。最先端、最新治療は実験的要素があるので飛びつかないことです。標準治療は広まってきたが、さらに個別化が進んでいます。乳がんはひとつの病気ではありません。

遺伝子発現解析による分類で乳がんの性格がわかります。遺伝子発現解析では細胞に色をつけて乳がんに関連する特殊な遺伝子が発現しているかをみます。その結果、4つのタイプに分かれることがわかってきました。

現時点ではみんなの遺伝子を調べることはできませんが、ホルモン感受性などの指標（ER，PR，Her2，Ki-67）の組み合わせによるサブタイプ判定で、遺伝子の解析結果と合うことがわかってきました。遺伝子を調べなくても、サブタイプで判定すれば、近い結果が出るということです。

サブタイプによって薬剤の選択基準が決まります。手術も大事ですが、薬をうまく使っていくことが重視されています。そのためには、自分のタイプと治療内容をよく知っておくことが大切です。

転移・再発乳がん治療について

自分のからだのことは自分で知っておくことが重要で、これまでになかった症状、普段とは違う痛みがあれば担当医に知らせることです。経過観察の他に、別の（乳がん以外の）がん検診もしっかり受けることが必要です。

再発を早く見つけるか自覚症状が出てからかは、正解がない問題ですが、治療法の進歩により再発後の生存期間は延長して来たのも事実であるということです。

局所再発と遠隔再発の治療の考え方は違います。ポイントは、慢性の病気ととらえて、薬で症状をコントロールして命に関わらないようにし、症状をできるだけやわらげることです。

乳がん治療薬は増えて来ているし、承認もされています。再発後の生存率は年ごとに上がっています。そして、質の高い長期間の延命もできてきています。自分が何を大切にしたいかによって治療内容は変わってきます。余命は誰にもわかりませんが、過去のデータはありますので、科学的根拠に基づいた治療（EBM）ができます。

フォローアップ検査の効果は証明されておらず、有効性はわからないのですが、今後はみんなで考えていきたいと思います。

玉置先生の最後のスライドは、チェリーの会のますますの発展をお祈りしますとのことで、たわわに実ったチェリーがいっぱいの写真でしめくくっていただきました。

講演後、参加の再発患者の方からコメントがありました。場の空気がぐっとしまりました。いっしょにこの講演を聴いてくれたことに感謝です。がんという病気とのかかわり方について改めて考える機会となりました。

お話し会

前回のチェリーの会で行なった「わたしのカルテ」作成について、初参加の方に、自分のサブタイプなどを知ることにより、治療に役立てていくことができるとの趣旨が説明されました。ある参加者は、診察のときに先生に聞いて完成させたそうです。

♥♡ ♥♡ ♥♡ ♥♡ ♥♡

ニューフェイス登場

2014年1月、玉置先生の後任として、内藤古真（ないとうこま）先生が着任されました。もう診察室等で会われた方もおられると思います。笑顔がすてきですね。

内藤先生（写真手前左）を囲んで

なお、玉置先生は那賀病院で引き続き金曜日の外来を担当されています。

内藤先生、チェリーの会もよろしくお願いします。

がんに関する相談はこちらへ
公立那賀病院
がん相談支援センター
電話番号：0736-78-3892
受付時間：月~金 9:00~16:00
（祝日・年末年始などの休診日を除く）

編集／発行：公立那賀病院内 乳がん患者会
チェリーの会
ウェブサイト
http://cherry.fz-web.com/
eメール
cherry@fz-web.com